

# HOSPITALITY



横浜YMCA学院専門学校 作業療法科ニュース 第26号

2008年12月10日発行

## HOSPITALITY

「ホスピタリティ」とは、互いの命や存在意義を理解し、認め合い、共に生きていくこと、またそれを実践する精神をいいます。

私たちYMCAはそうした精神を身につけた作業療法士を養成したいと願っています。

## クリスマスの意味

校長 西原 良信

クリスマスは、つまり主イエスの誕生は、どのような意味があるのかについて興味深い記述がルカによる福音書にある。幼子（イエス）の誕生は、つまり神がイエスをこの世に遣わすということは「（神の）憐れみによって、高いところからあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く」（ルカ 1:79）ということなのである。クリスマスは、平和への第一歩なのである。



興味深いことに、主イエス誕生の知らせは、まず最初に羊飼いに届くのである。当時の羊飼いは、社会的に最下層に置かれている人たちである。羊と共に野宿をつづけながら、盗人や野獣から羊を守るという不安と危険にさらされていた。律法が支配する世界では、差別を受けていた人々である。そのような境遇にある人たちにまず、良き知らせが届けられた所にある意味を感じる。クリスマスは、そのような人々への慰めと励ましであり、神が私たち一人ひとりに託された「平和と公正」(Peace & Justice)に満ちあふれた社会作りに関する強いメッセージである。私は、クリスマスをこういうメッセージの中で考えたい。

「平和と公正」とは、どんな環境や状況の下であっても、或いは障がいや病気があっても、その人が差別や偏見を受けることなく、その人らしく生きていける平和な社会をめざすことである。

クリスマスを迎えるたびに、この一年を無事に生きてこられたことを感謝する。しかし、喜びをもってクリスマスを迎えられない人も数え切れないくらい多い。私は、或いは私たちは、この一年「平和と公正」につながる取り組みをどれくらいやってきたのだろうか。これを担う人々をどれくらい育てられたのだろうか。多くの絶望的な状況や理不尽なことが多くある社会の中であっても「我々は微力だけれども、無力ではない」ということを本当に信じ続けてきたかを考えたい。



良き知らせを受けた羊飼いたちが、何の疑いも持たず、すぐにベツレヘムへ幼子を見に行った信仰の厚さと迷わず行動を起こしたことに改めて学びたい。多くの人々と生きている喜びを分かち合うクリスマスを迎えられるように尽くしていこう。

## ■ 地域作業療法学演習

作業療法科3年生の「地域作業療法学演習」では、障がい者の理解を深めようと9月から地域にあるさまざまな障害者施設の協力のもと各施設で演習を行いました。これらの施設は当校の最寄り駅である関内駅近くの中途障害者地域活動センターをはじめ、横浜市、鎌倉市にある地域生活サポートセンター、大和市にある横浜YMCA高齢者施設大和YMCAライフサポートセンターです。大和YMCAライフサポートセンターでは、事前に3名程度のグループで計画をした手遊びやゲーム、歌などのレクリエーションを利用者の方と共に行いました。学内にて練習を重ねましたが、本番では時間配分が上手くいかないことや、説明や言葉かけが十分でないことを実感したようです。ただ、利用者の笑顔やあたたかい言葉に救われ、今後の課題も確認できました。今回の学習を通して学生は、利用者の方が見せてくれた笑顔に嬉しさを感じると共に、グループで協力し合うこと、事前に細やかな準備を十分にすることの重要性を学んだことでしょう。学生の一人は「各施設では、その人に合った活動や支援がしっかりとなされていて、楽しく取り組んでいるように見えました。ボランティアの人との触れ合いは利用者の方にとっても刺激につながっていると聞いて、小さな交流からお互いに学び合えるのだと感じました」と演習での気づきを述べました。



## ■ 評価実習指導者会議

作業療法科3年生が行う臨床実習Ⅱ（評価実習）を前に、学生がお世話になる実習先の指導者との実習指導者会議を10月3日に行いました。今年度は特別講演として「実り豊かな臨床実習の原理と方策－評価実習に焦点を当てて－」というテーマで箱根病院の梅崎利通先生をお招きし、共に考える機会をもちました。はじめて3週間という実習を行う学生に対しての指導者側の配慮や、学生は指導者と共に学び合うという関係を通して学んでいく学びの構造、学生に対する5つの理解などについての話しがありました。作業療法士を育てていくための共通理解ができた貴重な時間となりました。



## ■ 特別講演会 くまぼうさん来校

4月の朝日新聞に17歳で難病の多発性硬化症を発症し、20年以上入退院を繰り返してきた竹田英雄さん（くまぼうさん）が半生をつづった小冊子「くまぼうの逆境方歳」の発行が紹介されました。作業療法科では10月7日に竹田さんを招き、20年以上のリハビリ生活やリハビリを受ける側の立場から見た実習生などの話しのほか、くまぼうさんが作詞・作曲した歌を交えながらの講演となりました。将来、作業療法士になる学生たちは、リハビリ職の責任の重さや難しさを感じながらも「自分にも人にも勇気を与えられる作業療法士になりたいと改めて感じました」と、講演を通して決意を新たにされた学生が多く見られました。この講演の感想の一部は、くまぼうさんが社長を務めるハートフルパワーのホームページで紹介されています。



## ■ 第11回 横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン

障がいのある子どもたちを支援する目的で10月18日に横浜みなとみらい21地区臨港パークで第11回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランが行われました。当日はYMCA会員の方々やこの趣旨に賛同してくださった企業など123チームが参加し、チャリティーの資金として約615万円が集まりました。作業療法科は、1年生チームが24位、2年生チームが4位と上位入賞を果たしました。また、作業療法科がある中央YMCAの運営委員会チームやピアサポート株式会社の障がいのある皆さんとの伴走など多くの学生が積極的に活躍してくれました。さらに、設定されたコース周囲には学生が大きな声でランナーを応援していました。この日は、関わった学生や教職員を含め多くの方々の暖かい想いが集まった一日となり、各々が楽しく過ごすことができました。



## ■ ウェルカム・フェスタ ご協力ありがとうございました！

11月23日（金・祝）に横浜中央YMCAウェルカム・フェスタを実施しました。このイベントはYMCA国際・地域協力募金のスローガンである「共に助け合って生きていく」ことをさまざまな活動を通し、国際理解をより深めることを目的に毎年開催しているものです。作業療法科学学生は、1～2年生が中心に出店し、売り上げの全額を募金しました。今年の出店内容は、1年生が毎年好評の餅つき「Omoti」、2年生は作業療法を紹介することを目的に、草細工クラブコーナーと簡単に体験できる作業療法チャレンジコーナーで人体の構造やハノイの塔などをゲーム感覚で紹介しました。当日の全体売り上げの772,672円が募金となります。ウェルカム・フェスタを通じて、他者への気づきと共に生きることを考えることができた一日となりました。献品や当日のボランティアなどで関わっていただきました保護者のみなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。



## ■ 作業療法科 合同礼拝

作業療法科では、年間計画として定期的に礼拝を行っています。11月16日には2年生を対象に礼拝を行いました。西原校長は奨励として「Care」をテーマにリハビリテーションの担い手となる学生に「障がいのある人の本当の気持ちはその人でないと分かりませんが、その人の気持ちに寄り添っていくことが大切ですので、みなさんも実践できるように多くの人との出会いを通して学ぶよう努めてください」とメッセージを送りました。また、11月22日には日本基督教団鶴川教会瀬戸英治牧師を迎えて1年生～4年生までの合同礼拝を行いました。テーマは「ファンタジーとしてのクリスマス」と題し、旧約聖書箴言29節18章と新約聖書マタイによる福音書を用いてクリスマスの物語を話され「人間の喜びや悲しみの中には捨ててはいけないうものがあり、人は支え合って生きていかななくてはなりません。クリスマスの機会に自分自身を振り返り歩みを強めてください」と実習前で緊張した面持ちの学生に、一歩立ち止まり考えることの大切さを話されました。礼拝後は、合同クリスマスに備え、讃美歌を全員で練習をしました。



## ■ YMCA専門学校合同クリスマス礼拝

県内にあるYMCA専門学校では毎年合同のクリスマス礼拝を行っています。今年も11月30日に鎌倉カトリック雪ノ下教会において行われました。礼拝では「クリスマスのプレゼント」と題して、川崎戸手教会の孫裕久牧師が主イエスのお生まれになった物語りである聖書「羊飼いと天使」を話され、朝鮮学校への登校のケアのボランティア活動を紹介しながら、周りの人や状況に「気づく」ことの大切さについて話されました。YMCAの専門学校はリハビリ、福祉、保育、スポーツの分野の学びを行っており、卒業後は人と接する仕事に就きます。孫牧師のメッセージをこれからの学生生活の中で活かしてほしいと願います。



## ■ YMCA専門学校 教職員研修会

横浜YMCA専門学校では、合同の教職員研修会を年2回実施しており、12月3日に「崩壊しない学校をめざして」というテーマで現場の高校教員を迎えて2回目の研修会を行いました。研修では、塾を含めた教育現場の経験から、ワークシートの活用や発言ポイント制などは生徒に関心を持たせる方法が紹介されました。また、学校づくりは日々の地道な努力の積み重ねであり、教員同士のチームワークや学生との日頃のコミュニケーションの大切さを改めて確認することができました。また、自主的に取り組む場面を意図的に設定すること、クラス委員長などの「長」の経験をする機会が減っているのだからそういった場面を皆に経験してもらおう工夫も必要ですと話されました。YMCAの専門学校では、毎年、教授法や学生理解などさまざまなテーマを設定し、学生たちにとって豊かな学習ができるよう教職員一同取り組んでいます。



## ■ 西原校長が病院内接遇マナー勉強会の講師を務める

11月6日にあさひの丘病院（横浜市旭区）の作業療法士をはじめ、看護師など約80名に対して病院内での接遇マナー勉強会で当校の西原良信校長が講師を務めました。日本ホスピタリティ推進協会理事でもある西原校長に依頼があり、病院での接遇マナーについて実習を交え講演会を行いました。

## ■ 校友会開催 第2代会長に宮川千絵さん

11月23日に2008年度の校友会が行われました。作業療法科は今年の3月に第3回目の卒業生を送り出しましたが、卒業生たちは各病院や施設において活躍しています。校友会では活動報告として、勉強会実施の報告があったほか、会計報告、今後の活動などについて協議がなされました。また、役員の変更があり、2年間にわたり初代会長を務めた木村亮太さんに代わり、第2代会長として宮川千絵さんが選出されました。卒業生は「ウエルカムフェスタの様子も見ることができ、先生方と会うこともでき良い日となりました」と終了後も先生方と近況報告などの話しに花を咲かせていました。



## ■ むくどりの家 むくどり新聞に学生の感想文掲載される

作業療法科3年生が8月に行った「精神障害の作業療法治療学」において見学したむくどりの家のむくどり新聞に学生の感想が掲載されました。一部を抜粋して紹介します。

むくどりの家にいらっしゃるみなさんの元気さと笑顔で緊張していた私は救われました。作業はランチの買出しなどを担当させていただきました。買い物や道中や調理中にたくさんのお話をすることができ、とても勉強になりました。机の上の勉強では学べないことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

作業療法科3年 石渡大地



## キャンパス ライフ



基礎作業学実習 陶芸完成



クリスマスリースづくり



学生作品 (クリスマスオーナメント)

横浜YMCA学院専門学校 作業療法科

横浜市中区常盤町1-7

TEL 045-641-5785 FAX 045-664-4018

E-mail: ymgakuin@yokohama-ymca.or.jp

ホームページ: <http://www.yokohamaymca.ac.jp>

